

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100238		
法人名	(有)築瀬の郷		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 国衛の郷		
所在地	群馬県安中市松井田町国衛56-1		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

老若男女問わず職員も配置し、アットホームな介護が出来る様になっている。食事は既製品ではなく、手作りで温かい栄養価の高い食事(配食含む)を提供していて、利用者様・ご家族様より「美味しい」と好評を得ている。コロナ禍ではあるが、季節毎に外出をし(花見や梨狩り等)喜んで頂いている。職員一人一人が利用者個々を自分の家族のように思い、教科書的な介護ではなく、心の通った介護を目指し日々努力している。笑いの絶えない楽しい雰囲気作りにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型居宅介護事業者の基本理念である「在宅支援」を制度に沿って実践している様子が見える。利用者には独居者が多く配食サービス(三食)や服薬・排泄支援、洗濯・掃除・ゴミ出しや受診の支援等一人では困難なことを事業所の手を借りればまだまだ在宅生活を続けていくことが出来るという希望が持てる手助けをしている様子がうかがえた。運営者が地域に住んでおり、地域のニーズを身をもって理解し、住民から事業所の開設を長年望まれていた経緯もある。利用者も口コミで広がっている。開設時の職員採用では地区や地域の方を採用し、地域の一員として、地域の人に助けられながら地域資源となって行くであろう姿があった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で利用者様がかけがえのない存在であると考え、その人らしく生きていける様支援している。	理念は職員会議で意見を聞き、内容を踏まえて管理者の思いを込めて作成した。管理者は職員の日頃の支援の様子を見ていると、自分の親を見る目で接してくれていると感じており、職員間に理念が浸透していることを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で地域交流は自粛しているが、地域住民と関われるよう踊りや歌のボランティア等に来所して頂き、地域の方々と誘い一緒に楽しんで頂いている。	地域情報は回覧板や区長・民生委員から取得している。どんど焼きに誘われたがコロナ禍ということもあり遠慮した経緯がある。独居の方のゴミ出しに協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ、認知症の理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の状況を踏まえ、市の担当者だけの開催を行っている。	市の担当者が毎回出席し開催している。利用者の日頃の活動状況(写真掲載)、行事報告、利用者の個別案件について意見交換をしている。	会議開催時の議事録を家族等に送付し、事業所の活動内容や状況等を知らせてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス調整会議、運営推進会議などで市町村担当者とは協力関係を築いていくよう取り組んでいる。また介護保険申請代行、認定調査時の立ち合いをしている。	ケアマネジャーがオンラインでサービス調整会議に出席している。家族の希望で介護保険の更新代行や認定調査の立会いを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時及び家族の同意がなければ身体拘束は行わない。職員会議等で話し合いを行い、身体拘束をしないケアを徹底している。	玄関の鍵は開錠している。中の入り口はパスワードだが暗証番号を知らせている。県や市の身体拘束・虐待の勉強会に出席し、適正化委員会を全員参加の職員会議時に開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県、市主催の研修会に参加し、参加した職員は職員会議にて他の職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在利用している方はいないが、司法書士等を招いて勉強会を行い、活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者同席にて施設の一日の流れや設備等説明して、理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等に来られた時直接家族には聞いている。面会に来られない方は、モニタリング等の時に聞いている。利用者本人は、いつでも耳を傾けている。コロナ禍では電話等で意見・要望を取り入れている。	独居者が多いが家族のいる方には「連絡ノート」で家族の質問や言いづらいことには配慮して、管理者やケアマネジャーが返事を書き共有している。本人本位を基本としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時や月一回の職員会議で職員の意見を聞く機会を設け希望に沿えるよう努めている。	職員会議でどの職員からも意見をくみ上げられるように色々工夫しながら、出された意見を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じ、職員の現状を話し、休日・有給等の要望をほぼ全て受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望のみならず、会社から研修参加を促し又、研修後は職員会議において他の職員にフィードバックするよう努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の案内等、病院や同業の施設等から来た時などは参加できるような取り組みをしている。今後はオンラインを含めた研修にも参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望等をさりげなく聞き、職員共有で安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日常生活で困っている事、施設を利用するに当たって、不安や要望に耳を傾け、安心して頂けるよう話を進めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリング、及び家族との話し合いで対応し、他のサービスも視野に入れ、話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家族に近い存在になれる様、日々努力している。また、様々な生活場面で利用者様から学ばせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎や配食訪問時やケアマネジャーの訪問時、家族に施設での様子などを報告し、ご家庭での様子を聞き、共に支えあう関係を築いている。お会いできないご家族とは、電話連絡で情報交換等をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により、外出や面会についての制限がある中で家族・知人等と窓越しでの面会や今までの習慣・趣味等継続的に出来る様支援している。	ユーチューブを使い体操やドリルを継続している人や新聞を読んだり携帯電話、財布やバッグを持っている人は安心と思える場所に各人置いてもらっている。宿泊者に年賀状が届いている。面会時は玄関のドア越し等状況により対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士の席を近くにしたり、会話の橋渡し役を行ったり、関係性を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから直接相談支援は進めていないが、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じて相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で伝えられる、られないに関わらず、本人目線になって支援している。	ケアマネジャーが週4回訪問しており、訪問時に利用者との会話を通して希望を確認したり、状況等から推察している。家族からは、電話や直接の会話等で希望を確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報、生活歴などで確認し、家族と話し合い把握に努めている。本人・家族・友人・知人・サービス利用先施設等から情報を収集して個別に記録・管理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員各々が観察し、介護記録、申し送りなどで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において本人・家族・関係者等で意見を出し合い、それを反映した介護計画を作成している。3か月毎の計画書の見直しと月1のモニタリングの実施を行っている。	ケアマネジャーが月1回自宅を訪問し、モニタリングを実施している。介護計画の見直しはアセスメントと共に認定期間毎に行われている。また、状態変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察で気になった事、本人の動向を個別記録に記入し確認し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時一番必要なニーズを見極め、今まで通りではなく新しいサービスも視野にいれていこう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響により、介護相談員の訪問及び外部の方を招いての行事等は自粛しているが、施設内で行えるレク等で楽しく過ごせる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、かかりつけ医の往診を受けている。また、ご家族対応出来ない時は、代わりに対応させて頂いている。	必要な利用者には月に1度程度の事業所の訪問診療受診も可能である。また、在宅時同居の方の中には、通院支援や看護師の服薬支援を受けている人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職・看護職共に情報を共有し、月々の受診、往診など支援し、利用者の日常の行動で捉えた情報なども報告し共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、基本情報などを利用し、病院関係者と情報交換などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、職員、3者で事前に方針を決め、家族に同意を得て共有している。	法人の終末期に向けた方針を契約時に説明している。本人が望み、その段階になった時に方針に沿って医師の判断を仰ぎ、話し合うことを職員は共有している。在宅者の健康管理に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の設定や応急手当等の研修に参加していくよう努めている。また、看護職からの指導を職員会議で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の確認、消防立ち合いで避難訓練を年2回行っている。自主防災訓練を実施し備蓄品等の確認を行っている。	コロナ禍の状況で自主防災訓練を令和4年1月に職員と利用者で総合訓練を実施した。備蓄は食料・水・ガスコンロ・衛生用品を用意している。スプリンクラー業者の点検を受けている。	小規模多機能型居宅介護の特性を活かした自主訓練を重ねて、災害時にスムーズに避難できるように備えてはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけない言葉かけや配慮に努め、プライバシーを守れるよう心がけている。	各人の辿ってきた歴史を把握し、声掛け時の顔の表情や会話の内容等で本人の気持ちを察し、接し方を変える等気持ちよく過ごしてもらえるように努め、生きがいを手探りで検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしたい事、やりたい事、日頃からよく耳を傾け、何気ない事でも自己決定していただけるよう出来る限りの支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩等歩かれる方には寄り添い、居室で過ごされる方は、誘導したり、その人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛着ある服など持参して頂き、いつでも着られるよう支援している。また、着用して来られた服や小物を褒めるなどして自信を持っていたいでいる。希望者には、散髪できる様取り計らっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が率先して準備及び片付けを協力してくださっている。個々の状態や好みに合わせた食事を提供し、季節の食材を取り入れる様創意工夫をしている。	配食は(朝・昼・夕)の三食を届けている。事業所内では朝食は配食業者のチルド食品を温め、昼・夕食は調理し提供している。家族にメニュー表を配り、代替食の用意や行事食も提供している。飲み物も数種類用意し希望を聞き提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、残量確認、水分量チェックを行い、記録している。また、糖尿病食・腎臓病食にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、見守りを行い、利用者様の状態によっては一部介助を行い、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導を行い、尿意、排便など本人から訴えあれば支援を行っている。それぞれの方の状態に応じ声かけや誘導の仕方を工夫し支援している。	トイレでの排泄を支援し、時間誘導や声掛けで快適な支援に繋げている。宿泊時は本人の希望でトイレに近い部屋を指定する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、野菜摂取、食物繊維摂取、体操にて下腹部マッサージ。また、利用者様の状態によっては主治医より下剤等を処方して頂き、排便記録をつけ観察している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴日を設けているが、希望が有れば入浴日以外でも入浴出来る様支援している。また、個々の状態に応じて清拭などの支援を行っている。	入浴日の他に希望が出れば機械浴や個浴で対応している。拒否する人には何度も同じ支援を繰り返し、長いスパンで入ってもらえるように支援することを職員は共有している。地域の方から菖蒲やゆずが届くので季節の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人希望にて就寝して頂いている。室温調整、寝具調整など行っている。不眠がちの方には主治医と相談しながら安定剤の支援なども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により、看護師が確認、管理している。また、薬の変更等あった際には、看護師より申し送りノートに記載し、職員間で共有し症状の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を踏まえて、レクリエーションにて、折り紙、ぬり絵、皆で合唱等行い、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響により、外出行事等は困難だが、必要に応じて買い物に職員が同行している。季節ごとの外出にも力を入れている。	コロナ感染症の程度にもよるが花見に出かけている。日常的には、散歩や自宅を見に行っている人、郵便物を家に取りに行く人、家に帰り掃除を一緒にする等で外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点から、お金は事務所で預かりさせて頂き、必要に応じて本人(家族同意の元)にお渡ししている。商店にて買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り、携帯にて連絡されている方もいる。送付物に関しても本人の希望に沿える様支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の換気、掃除には気を付け、季節の花を飾ったりしている。また、共有空間では、居心地よく過ごせる様雰囲気作りや、季節の飾り物、制作物などを飾っている。	利用者がモップをかけたり洗濯物をたたむ共用空間はホワイトボードに食事のメニューが書かれており、カレンダーや各人の日頃の作品が希望で掲示されている。時期の分かる掲示物や花を利用者が持参したり近所の方からいただき飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて一人の時間を過ごして頂き、時には小上りにて、気の合った利用者様同士で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊時や家族来所時に利用者様と相談しながら使い慣れたものを持参して頂き、少しでも自宅に近い環境作りに努めている。	ベッド・エアコン・物入れが用意されている。本人の希望でトイレに近い部屋を利用できる。ひざ掛け、着替え、座布団、指輪や時計、洋服が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に番号の張り紙をして分かる様にしたり、手すりを設置し安全にも留意している。		